

第6回江戸街道プロジェクトアドバイザー会議

議事要旨

日時：令和7年3月13日（木） 15:00～17:00

場所：関東運輸局 横浜第2合同庁舎 16階 AB会議室

出席者（敬称略）：

公益社団法人日本観光振興協会総合研究所 顧問 丁野 朗

株式会社リクルート 地域創造部 部長 高橋 佑司

株式会社三菱総合研究所 主席研究員 宮崎 俊哉

跡見学園女子大学 兼任講師 山崎 まゆみ

株式会社ジャーマン・インターナショナル 代表取締役社長 ルース・マリー・ジャーマン

特定非営利活動法人全国街道交流会議 専務理事 古賀 方子

足立成和信用金庫 理事長 土屋 武司 *オンライン

一般社団法人日本ウオーキング協会 事業統括専務理事 井上 成美

一般社団法人ONSEN・ガストロノミーツーリズム 推進機構 相談役 岡村 清二

関東運輸局 局長 藤田 礼子

関東運輸局観光部 部長 近藤 光則

議題：

- (1) プロジェクトの取組状況について
- (2) プロジェクトの今後の展開について

議事要旨：

(1) プロジェクトの取組状況について

○江戸街道関連事業に関するご意見

- ・昨年11月に行った交流会には手ごたえがあり、事業を実際にやっている方々同士のお互いのブラッシュアップがとても大事な段階になってきたといえる。彼らが自らリードしながら引っ張っていくような環境が求められる。
- ・どこも自分の宿場（地域）を盛り上げるのにどうしたらいいかという悩みは持っている。どんな事をやるのがいいか等お互いに共有したいという希望は非常に高くなっている。
- ・国の成果発表会などでは、なかなか素直な感想が聞けない。事業が終わった後に実際どうだったかという場を作ることも大事なのでは。
- ・それぞれの取組は1回やって完結するのではなく、1回やった結果を踏まえて次にどう発展させていくか、持続させていけるかが重要となる。
- ・事業への参加をきっかけにして興味をもたれた方も多かったと思う。そこで江戸街道の地域同士を接続して、“この地域に行くともっとこういうものがある”というものを伝えられたらよかったのではないかと感じた。

○参考事例の共有など

- ・多くの事業で、外国人モニターを集めるのに苦労している。これをサポートすることはできないか。
- ・食というキーワードは強く、一番のフックになる。GREEN×EXPO 2027 との連携でも大事にしていくとよい。
- ・マスコミの取材で、江戸街道プロジェクトを紹介した。日本語版が掲載された際にとっても反響が大きく、マーケットは外国人だけでなく日本人にもある。

(2)プロジェクトの今後の展開について

○情報共有や連携の今後についてのご意見

- ・事業の結果だけではなく、「過程」も公開していく場を作ることも一つの方法である。
- ・最初はある程度こちらで水を向けてあげて、周りをどんどん巻き込むような展開を考えていくのがいい。ワークショップ等の開催や、ベストプラクティス集の作成などを検討してはどうか。

○江戸街道プロジェクトの今後の体制についてのご意見

- ・地域の皆さま方をどうフォローアップして、どうやって実際に動いていくのかを考えたい。
- ・江戸街道プロジェクトの目指す姿は、もう少しブラッシュアップしても良いのでは。来年度、どういう形にしていくか方向性を議論して決めていくとよい。
- ・あるべき姿があり KGI・KPI がある。あるべき姿は必要に応じて確認見直しするのが大事で、掲げただけでなく、気が付いたときに再度検討すること。

○江戸街道プロジェクトの情報発信（ポータルサイト、GREEN×EXPO 2027 との連携等）

- ・事業実施者が自分たちで情報を入力して募集をかけられるなど、まわりの事業者への声掛けや連携にも使えるようなサイトであるといいと思う。お客様向けだけでなく事業者の連携にも使えるといい。
- ・江戸街道プロジェクトの側面的な支援として、地域住民の認知向上ということに取り組んではどうか。
- ・GREEN×EXPO 2027 はゴールではなく、きっかけでありスタート地点。そのあとどう反映されるのか、私たちも考えていくが、これも考えていってほしい。

○その他事業についてのご意見

- ・二次交通は大きな課題、事業期間中は例えばバスを運行できるが、事業後は運行がなくなる。二次交通について意見交換できるよう、交流会の際に運輸局のエキスパートのような方を置いてはどうか。
- ・観光施設のトイレ整備をはじめとしたユニバーサルデザイン化はインバウンドにも喜ばれる。ハードの補助事業について、興味のある事業者に共有してもらいたい。

以上